

社会・地域貢献のできる、 開かれた大学。

贡献于社会与地区的开放型大学



マークの意匠は、和歌山が生んだ医聖華岡青洲が全身麻酔として用いた植物「まんだらげ（チョウセンアサガオ）」の花に「医」の文字をデザインしたものです。

「まんだらげ」の花の絵は陶芸家富本憲吉氏の作で、もとは昭和 38 年に開催された医学総会のために描かれたものでした。その後に「医」の文字を付加して、和歌山県立医科大学のマークとして永年親しまれてきた歴史を経て、昭和 62 年に正式に校章として認定されました。

校徽标志是在和歌山的华冈青洲医圣用于全身麻醉的植物“曼陀罗”花中带“医”文字样的设计。

“曼陀罗”花绘是陶艺家富本宪吉的作品，最初是为1963年召开的医学总会而设计的。之后添加“医”文字样，作为和歌山县立医科大学的标志历经长年经久不衰的历史，于1987年正式被认定为校徽。



■ 目標 目标

和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって、地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。

和歌山县立医科大学，以医学和保健护理学相关学术为中心，以研究传授基础性、综合性的知识、高度专业的学术，及培养具有丰富的人性和崇高的伦理道德观的高素质的人才为目标，通过健全地区性医疗事业来回应市民的期待，为地区的发展做贡献，为提高人类的健康福利而努力。

■ 基本方針 基本方针

- (1) 高等教育及び学術研究の水準の向上に資する。
- (2) 高度で専門的かつ総合的な能力のある人材の育成を行う。
- (3) 学生の修学環境の充実を図る。
- (4) 高度で先進的な医療を提供する。
- (5) 地域の保健医療の発展に寄与する活動を行う。
- (6) 地域に生涯学習の機会を提供する。
- (7) 地域社会との連携及び産学官の連携を行う。
- (8) 人類の健康福祉の向上に寄与するための活動を行う。

- (1) 提高高等教育以及学术研究的水平。
- (2) 培养高度专业的、具有综合能力的人才。
- (3) 致力于营造充实的学习环境。
- (4) 提供高度的先进的治疗。
- (5) 展开为地区保健医疗事业发展做出贡献的活动。
- (6) 为当地人民提供学习培训的机会。
- (7) 与地区社会合作以及致力于产·学·政府的协作。
- (8) 展开为提高人类健康福利做贡献的活动。

■ 入学定員数 入学定员数

学 院 部 学 院	医 学 部 医 学 院	100
	保健看護学部 保健护理学院	80
	3年次編入学 3年级编入	4
助産学専攻科 助产学专业		10
大 学 院 研 究 生 院	博士課程 博士课程	42
	修士課程 硕士课程	14
	保健看護学研究科 保健护理学研究科	12

■ 教育理念 教育理念

総合的・専門的な基礎・臨床能力を高めるとともに医師としての倫理観・人間性の涵養を図り、地域医療に貢献し、国際的に活躍できる全人的医学教育を推進。

在提高综合的、专门的基础/临床能力的同时，培养作为医生的伦理道德观及人道主义，为地区医疗做贡献，推进能在国际医疗界大显身手的整体性的医学教育。

■ カリキュラム概要 课程概要

和歌山県立医科大学医学部は、知識に偏重した従来型の教育を脱却し、知識・技能・態度(倫理観)を総合的に育成できる教育を目指しています。また、従来の縦割りの教育から、構造・機能、臓器別の横断的・総合的なカリキュラムを導入することにより、臨床・研究能力の高い医師の育成が出来るように平成18年度にカリキュラム改革を行いました。

改革の骨子は、各年次で修学の状況を確認し、重要な内容については繰り返すことも加味しながら段階的な統合教育を目指すものです。主として1年次にはリベラルアーツ(教養教育)を中心とります。具体的には、医学部への準備教育や自然科学、社会人としての教養、医師としての倫理を学ぶ期間です。また、2年次、3年次には臨床の基礎となる基礎医学の領域を中心として学ぶとともに、約2ヶ月間の基礎配属において研究に親しむ期間を設けております。4年次から6年次には臨床医学の基礎的な内容を学ぶとともに、臨床の現場での臨床実習を行います。これらの課程では、従来の講義形式の授業と並行して、自分自身で問題点を発見し、解決する問題解決型の教育を多く取り入れています。

さらに、臨床の準備教育としての臨床技能の研修を、模擬患者やシミュレーターを用いて行い、より実践的な技能を身に付けられるよう配慮しています。そのための臨床技能研修センターも併設しています。

また、患者さんや弱者の方々の心の痛みにも目を向け、社会的な支援システムなども理解し、地域医療にも早期から慣れ親しむための教育にも力を入れており、1年次より早期体験実習や地域福祉施設体験実習を行い、2年次、3年次には保育所・障害者福祉施設実習、5年次、6年次には医療問題ロールプレイや緩和ケア病棟実習などを行っています。

これらの取り組みを通じて、本学では総合的・専門的な基礎・臨床能力を高めるとともに医師としての倫理観・人間性の涵養を図り、地域医療に貢献し、国際的に活躍できる全人的医学教育を推進しています。



和歌山县立医科大学医学部的教学目标是抛弃偏重知识的传统教育，建立注重综合培养知识、技能、态度（伦理观）的素质教育机制。在原来的纵向教育的基础上，导入了各结构功能、各内脏器官的横向综合课程。为了培养具有高超临床、研究能力的医生，2006年度进行了全课程教学计划改革。改革的要点是各年级确认学习情况，在阶段性综合教育的同时，对重点内容进行反复强调。第1年以文化课程（教养教育）为中心。具体来说就是学习医学部的准备教育、自然科学、作为社会一员应有的素养、医生伦理观等的阶段。第2年、第3年是围绕作为临床基础的基础医学领域的学习，此外还安排了2个月左右的实践时间，亲自动手研究。第4-6年，在学习临床医学的基础内容的同时，深入临床现场进行临床实习。这些课程中，在原来的讲课教学形式之外，更多地掺入自己能发现并解决问题的解决问题型的教育。进而，在临床准备教育的临床技能的培训中，为了使学生掌握实践性的技能，我们采用了模拟患者和模拟器，并设立了临床技能培训中心。另外，我们还致力于教育学生关注患者和弱者们的心中的痛楚，在了解了社会支援体系的基础上，提前熟悉地区医疗。在第1年进行早期体验实习和地区福利机构体验实习，第2、3年有保育园、残疾人福利机构实习，第5、6年进行医疗问题模拟、缓和医疗病房实习。通过这些措施，我校在提高综合及专业的基础临床能力的同时，培养学生作为医生应具备的伦理观和人性，培养为地区医疗事业做贡献，推进能在国际医疗界大显身手的整体性的医学教育。





■ 教養医学

教養医学

教養教育科目的授業は、1年から2年にかけて行われます。人としての幅広い見識と、専門医学への準備としての基礎知識を身につけることを目的としています。また、入学の早い時期に医療の現場を体験する「Early Exposure早期臨床体験実習」を実施し、医学及び医療に対する関心を高め、これから医学を学ぶにあたっての問題意識を深めるカリキュラムがあります。

- 数学 ● 統計学・医学統計学 ● 物理学 ● 化学 ● 生物学 ● 情報処理 ● 英語・ドイツ語・フランス語・中国語 ● 保健体育 ● ケア・マインド教育 ● 倫理学 ● 法学・政治学 ● 心理学 ● 哲学 ● 医療行動科学 ● 医療社会科学 ● 生物学実習 ● 化学実習 ● 物理学実習 ● 心理学実習 ● 早期臨床体験実習 ● 教養セミナー ● 教養特別セミナー ● 医学入門

教養教育科目的课程是跨1、2年级进行的，目的是拓宽视野、增长见识，掌握基础知识为进入医学专业做准备。此课程在入学初就开始体验医疗现场，开展“Early Exposure早期临床体験実習”，提高对医学及医疗的关注度，在以后的医学学习中碰到类似问题留下深刻印象。

- 数学 ● 统计学・医学统计学 ● 物理学 ● 化学 ● 生物学 ● 信息处理 ● 英语・德语・法语・汉语 ● 保健体育 ● 护理・智能教育 ● 伦理学 ● 法学・政治学 ● 心理学 ● 哲学 ● 医疗行为科学 ● 医疗社会学 ● 生物学实习 ● 化学实习 ● 物理学实习 ● 心理学实习 ● 早期临床体験实习 ● 教养研讨 ● 教养特别研讨 ● 医学入门



■ 基礎医学

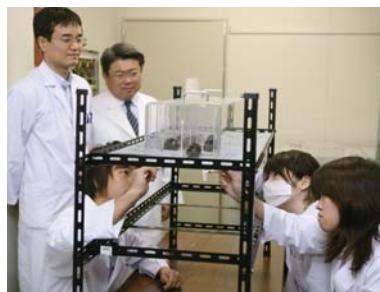
基础医学

基礎医学科目的授業は2年から3年にかけて行われます。「基礎医学」は医学の原点であり、臨床医学と表裏一体をなすものです。肉眼解剖から遺伝子レベルに至る人体の構造と機能を学び、さらに病気の病態、病因、薬物の作用、および社会と疾病の関わりについても学びます。また、最後の2ヶ月間は各講座に少人数で配属され、自分の興味のあるテーマを選び、基礎医学の研究室で実際の研究に触れる機会があります。

- 細胞の構造と機能 ●人体の正常構造と機能 ●生体物質の代謝 ●基礎医学英語 ●特別講義 ●基礎医学PBL ●生体と微生物 ●病因と病態 ●人の死(法医学) ●免疫と生体防御 ●生体と薬物 ●生態と病害動物 ●遺伝子と遺伝子異常 ●医学英語 ●衛生学 ●公衆衛生学 ●解剖学実習 ●生理学実習 ●生化学実習 ●薬理学実習 ●病理学実習 ●微生物学実習 ●衛生学実習 ●公衆衛生学実習 ●基礎配属 ●地域実習

第2-3年进行基础医学科目的教学。“基础医学”是医学的根本，与临床医学内外一体。学习从肉眼解剖到遗传基因的人体构造和功能，学习疾病病程、病因、药物的作用以及社会和疾病的关系。在最后的2个月中，各讲座小班上课，选择自己感兴趣的课题，有机会到基础医学研究室接触实际研究。

- 细胞的构造和功能 ●人体的正常构造和功能 ●生物物质的代谢 ●基础医学英语 ●特别讲义 ●基础医学PBL ●生物和微生物 ●病因和病状 ●人之死(法医学) ●免疫和生物防御 ●生物和药物 ●生态和病害动物 ●遗传基因和遗传基因异常 ●医学英语 ●卫生学 ●公共卫生学 ●解剖学实习 ●生理学实习 ●生化学实习 ●药理学实习 ●病理学实习 ●微生物学实习 ●卫生学实习 ●公共卫生学实习 ●基础实践 ●地区实习



■ 臨床医学

临床医学

臨床医学科目は4年から始まり、病気の診断、治療、予防について学びます。臨床実習は5年から6年前期の間、少人数(3人程度)に分かれて行われます。医療の現場を体験しながら、良き医師としての態度や知識・技術を身につける場であり、教科書からは得がたいものを自ら学びとります。講義には、臓器別に疾患をとらえた系統的講義と各科の特徴をふまえた講義があり、臨床医学を総合的に理解するための工夫が凝らされています。

- 血液系 ●代謝分泌系 ●感染・免疫系 ●循環器系 ●呼吸器系 ●消化器系 ●神経系 ●腎・泌尿器系 ●特殊感覺系(耳鼻咽喉科) ●特殊感覺系(眼科) ●皮膚・結合織系 ●運動器系 ●精神医学系 ●生殖系 ●小児科学 ●麻酔科学 ●救急医学 ●臨床検査医学 ●画像医学 ●放射線治療 ●リハビリテーション ●歯科口腔外科 ●東洋医学 ●病態栄養学 ●医療情報学 ●看護体験実習 ●CPC(臨床病理検討会) ●臨床実習入門 ●臨床実習

临床医学科目从第4年开始，学习病症诊断、治疗及预防。在第5-6年期间小班上课（约3人一组）进行临床实习，深入医疗现场，亲身体会和掌握作为一位好医生应有的态度、知识和技术，这些是在课本中学不到的。讲义中，有针对性各内脏器官疾病的系统的讲义和包括各科特征在内的讲义，课程的编排有助于综合理解临床医学。

- 血液系统 ●代谢分泌系统 ●感染・免疫系统 ●循环系统 ●呼吸系统 ●消化系统 ●神经系统 ●肾・泌尿系统 ●特殊感觉系统(耳鼻咽喉科) ●特殊感觉系统(眼科) ●皮肤・结合组织系统 ●运动系统 ●精神医学系统 ●生殖系统 ●小儿科学 ●麻醉科学 ●急救医学 ●临床检查医学 ●影像医学 ●射线治疗 ●康复科 ●牙科口腔外科 ●东方医学 ●病理营养学 ●医疗信息学 ●护理体验实习 ●CPC (临床病理探讨会) ●临床实习入门 ●临床实习



■ 医学部三葛教育棟

医学院三葛教育棟

医学部三葛教育棟は、将来のチーム医療を担う中核的人材育成のための教養教育の核となる建物で、和歌山県の補助を受けて三葛キャンパスに建築しました。平成21年4月から医学部1年生は、この建物で教養科目を学んでいます。

医学院三葛教育棟是在和歌山县的资助下建于三葛校内的教育楼。是为培养将来医疗队伍中的骨干精英而建立的教养教育的核

心建筑物。2009年4月开始，医学院1年级学生将在这里学习教养课程。



保健看護学部

保健护理学院

■教育目標 教育目标

保健看護学部では、次の5つを教育目標として人材育成します。
保健护理学院通过以下5个教育目标实现人才培养

生命の尊厳と幅広い教養を基盤にした豊かな人間性と高邁な倫理観の涵養

人を慈しみ、生命を愛し、人々の健康と幸せを支援することができるよう、基礎的知識・技術を学び、豊かな人間性と教養を備えた資質の高い人材を育てます。

培养以生命的尊严和深厚的教养为基础，丰富的人性和崇高的伦理道德观
要培养能够慈爱待人，珍爱生命，为人们的健康和幸福服务的人才，就要培养具有扎实的基础知识和技术，并具备丰富的人性和良好教养的高端人才

個性を尊重し、全人的理解と信頼関係を築く、優れたコミュニケーション能力の育成

住民とのふれあいを重視し、社会で生活する人間の理解を深め、人に学びながら、多様な情報を捉え、適切な判断ができる能力を育てています。

尊重个性，建立整体性的理解与信任关系，培养卓越的交流能力

重视与居民的交流，深入了解在社会中生活的人们，在向他们学习的同时，捕捉各类信息，培养敏锐的判断力。

種々の関連職種とチームワークができる協調性に富む人材の育成

保健、医療、福祉の総合的な視野を持ち、種々の関連分野の人々と連携・協力して、全体を調整、管理できる能力を育てます。

培养能与各相关职业合作的富有组织协调能力的人才。

培养保健、医疗、福利的综合视野，与各种相关领域人们合作的能力，以及全局掌控能力

生涯にわたり自己啓発し、社会の多様なニーズに対応できる人材の育成

4年間の一貫教育の中で、自主性・主体性を育み、多様化する社会のニーズに柔軟に対応でき、新しい看護を切り拓いていく人材を育てます。

培养不断自我启发，适应社会多样性需求的人才

在4年一贯教育中，培养自主性、独立性，灵活应对多样化社会需求，开拓新型护理模式的人才

科学的思考力、高度な専門的知識と技術に基づいた実践力と創造力の育成

医療の高度化、専門化に対応できる洞察力、判断力、実践力を身につけ、保健・医療・福祉の担い手となる人材を育てます。

培养基于科学的思考能力、高度的专业知识和在技术基础上的实践能力和创造能力

培养具有应对医疗的高度化、专业化的洞察力、判断力、实践能力，以及保健、医疗、福利事业的中坚人才

■カリキュラムの特徴 課程特征

カリキュラムは「教養と人間学の領域」「保健看護学の基盤となる領域」「保健看護学の専門となる領域」の3領域で構成され、専門分野の枠を超えた横断的・統合的な学習ができるようにしています。

课程由“教养和人类学领域”“保健护理学基础领域”“保健护理学专门领域”三部分构成，能超越专业领域框架，进行横向综合的学习

■充実した教養、基礎教育

保健看護職には、全人的な人間の理解に基づいた人への思いやりや優しさが必要です。「教養と人間学の領域」では、学習意欲にあふれ、倫理的でおもいやりのある人材を育て、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力の育成を目的とします。個々の学生の異なる関心に対応できるように、選択履修科目を多く取り入れています。

全面充実的教养、基础教育

保健护理职业不仅需要整体理解人性，而且要体谅他人、温和待人。在“教养和人类学的领域”中，以培养具有强烈学习欲望和注重伦理的人才，和养成丰富的人性以及高超的交流能力为目标。为满足各个学生的兴趣，开设各种选修科目。

■ユニークな科目 特有科目

早期体験実習

早期体验实习

入学後の早い時期に実際に地域に出向き、地域に暮らす人々がどのような環境の中で「暮らしと健康」を考えているか探究し、今後の学習に生かします。

在入学后的早期就深入到地区，研究生活环境是如何影响该地区人们对“生活和健康”的看法，并活用到今后的学习中。





■人間の理解を深め、人々の健康を支援するための基盤を形成

「保健看護学の基盤となる領域」では、保健看護学の土台となる「人間と生命倫理」「保健と福祉」「健康と病態」、保健看護活動を支える「基礎看護」を学び、保健看護専門職の基盤を形成することを目的にしています。

能为人类健康提供帮助的基本能力

“保健护理学基础领域”的宗旨是：学习被称为保健护理学根基的“人性和生命规律”、“保健和福利”、“健康和病状”，以及指导保健护理活动的“基础护理学”，打下保健护理专业基础。

■問題解決能力、判断力、研究能力を育てる専門教育

人間を理解し、あらゆる状況に柔軟に対応できるために、洞察力、問題解決能力、判断力などを身につけることを目的としています。授業は、講義だけでなく、演習や実験、実習等を取り入れ、少人数による学習を積極的に取り入れ、体験的、自主的に学習できるように工夫しています。

培养问题解决能力、判断力、研究能力的专门教育

以理解人性，培养能灵活应对所有情况所需要的洞察力、问题解决能力和判断力为目标。上课时，不光讲课，还要进行练习、实验、实习等，积极引进小班教学，致力于采取体验、自主的学习方式。

■保健・医療・福祉の包括的学習

人々の生活に視点を当て、保健・医療・福祉を包括的に学べるようにしています。実習では、暮らしを通して学習できるように、病院のみでなく、保健センター、訪問看護ステーション、産院、保育所、小中学校、企業、介護老人保健施設などで実習できるようにしています。

保健、医疗、福利的综合学习

将视线集中在人们的生活中，综合学习保健、医疗、福利等相关知识。实习地点不仅有医院，还有保健中心、访问护理所、产科医院、保育园、中小学校、企业、老年看护保健院等。通过实习可以从日常生活中学习到很多知识。

教養セミナー

教养研讨会

学生自ら問題を発見し、自らその解決法を見つける学習です。少人数に分かれ、議論しながら進めます。

培养学生自我发现问题、解决问题的能力。因为分成多组，每组人数较少，可以边讨论边学习。



統合実習 I

综合实习 I

地域で暮らす様々な発達段階の人々の生活を知り、健康な生活を守るためにの健康管理や生活環境のあり方について学びます。

熟悉在地区中生活的人们不同发展阶段的生活情况，并学习为了维持健康生活的健保管理和应有的生活环境。



家庭訪問実習

家庭访问实习

乳児のいる家庭への継続的な訪問により、生活の場における対象の理解、家族を単位とした支援のあり方について学びます。

通过对有婴儿的家庭的持续访问，理解在实际生活中的对象，学习如何为以家庭为单位的人提供帮助。



保健看護研究 I

保健护理研究 I

保健看護研究についての初步的、基礎的な知識を深めるために、研究を各段階に分けて学びます。

为深入理解保健护理研究的初步基础知识，将研究分为各阶段进行学习。

保健看護研究 II

保健护理研究 II

保健看護研究Iで学んだ基礎的な知識や研究手法を活かして、実際の研究を行うことで研究の仕方を学びます。

灵活应用在保健护理研究 I 中学到的基础知识和研究方法，通过实际的研究学习研究方法



医学研究科

医学研究科

大学院医学研究科(博士課程)は、昭和31年3月に定員31名で設置認可となり、以来「優秀な医師は、優秀な研究から生まれる」との理念が研究科の基本をなしています。また、その目的は設立時から不变ですが、21世紀の医学研究の高度及び細分化する医学の理論及び応用を教授研究し、自立して研究活動を行うのに必要な深い学識と倫理性と研究能力を備えた優れた人材を育成することにあります。設置以来、課程博士421名・論文博士849名(平成22年3月末現在)が学位授与され、各分野で活躍しています。平成17年4月からは、先端医学の研究、治療が発展する一方で統合化・総合化が求められている現在の医学・治療に対応するため、従来の縦割りの専攻制度(5専攻:生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系)を廃止し、医学研究の具体的方向を示す3専攻(地域医療総合医学専攻・構造機能医学専攻・器官病態医学専攻)、9領域、46科目に大幅な再編整備を行い、定員も42名となりました。また、同時に医科学専攻(修士課程)も開設し、地域医療や健康保健医学に貢献する体制が整えられています。

Curriculum

修士課程		博士課程		
区分	科 目	区分	科 目	
共通教育科目	基礎生体科学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論(講義・演習)	環境保健予防医学	
	人体構造機能学概論	口腔顎顔面外科学特論(講義・演習)	公衆衛生学	
	分子生命科学概論	皮膚病態学特論(講義・演習)	放射線医学	
	薬理学概論	分子病理学特論(講義・演習)	臨床病態解析学	
	医科科学研究法概論	人体病理学特論(講義・演習)	精神医学	
	微生物学・ウイルス学概論	環境保健予防医学特別研究	リハビリテーション医学	
	病理病態学概論	公衆衛生学特別研究	麻醉科学	
	社会・予防医学概論	放射線医学特別研究	救急・集中治療医学	
	臨床医学概論	臨床病態解析学特別研究	総合内科学	
	特別講義	精神医学特別研究	総合外科学	
環境保健予防医学特論(講義・演習)		法医学		
公衆衛生学特論(講義・演習)		医学教育・集団医療学		
放射線医学特論(講義・演習)		生殖病態医学		
臨床病態解析学特論(講義・演習)		生殖保健学		
精神医学特論(講義・演習)		発達小児医学		
リハビリテーション医学特論(講義・演習)		小児保健学		
麻酔科学特論(講義・演習)		形態機能医学	生体情報形態学	
救急・集中治療医学特論(講義・演習)			分子機能形態学	
総合内科学特論(講義・演習)			統合神経生理学	
総合外科学特論(講義・演習)			統合分子生理学	
法医学特論(講義・演習)			機能調節薬理学	
医学教育・集団医療学特論(講義・演習)			代謝生物化学	
生殖病態医学特論(講義・演習)			細胞分子生物学	
生殖保健学特論(講義・演習)			分子免疫学	
発達小児医学特論(講義・演習)			生体分子解析学	
小児保健学特論(講義・演習)			病原微生物学	
生体情報形態学特論(講義・演習)		構造機能医学	ウイルス学	
分子機能形態学特論(講義・演習)			糖尿病・内分泌代謝内科学	
統合神経生理学特論(講義・演習)			消化器内科学	
統合分子生理学特論(講義・演習)			呼吸器内科学	
機能調節薬理学特論(講義・演習)			循環器内科学	
代謝生物化学特論(講義・演習)			神経内科学	
細胞分子生物学特論(講義・演習)			腎臓・体内環境調節内科学	
分子免疫学特論(講義・演習)			血液内科学	
生体分子解析学特論(講義・演習)			胸部外科学	
病原微生物学特論(講義・演習)			消化器外科学	
ウイルス学特論(講義・演習)		器官病態内科学	脳神経外科学	
糖尿病・内分泌代謝内科学特論(講義・演習)			整形外科学	
消化器内科学特論(講義・演習)			脊椎脊髄病学	
呼吸器内科学特論(講義・演習)			泌尿器科学	
循環器内科学特論(講義・演習)			視覚病態眼科学	
神経内科学特論(講義・演習)			耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	
腎臓・体内環境調節内科学特論(講義・演習)			皮膚病態学	
血液内科学特論(講義・演習)			分子病理学	
胸部外科学特論(講義・演習)			人体病理学	
消化器外科特論(講義・演習)				
脳神経外科学特論(講義・演習)				
整形外科学特論(講義・演習)				
脊椎脊髄病学特論(講義・演習)				
泌尿器科学特論(講義・演習)				
視覚病態眼科学特論(講義・演習)				

研究生院医学研究科(博士課程)は1956年3月批准設立の、当时的招生定額人数が31人。从那时开始“优秀的医生来源于优秀的研究”成为研究科的基本理念。其目的从设立以来一直没有改变，在此基础上，还加入研究传授21世纪医学研究的高度和细分化的医学理论及应用，培养具备独立研究活动所需要的渊博的学识、伦理性及研究能力的优秀人才的理念。开设以来，共有课程博士421人/论文博士849人(截止到2010年3月底)取得学位，并活跃在各领域。2005年4月开始，尖端医学的研究、治疗不断发展，为了应对现代医学和治疗一体化、综合化的要求，废弃原来纵向的专门研究制度(5大专业：生理学科、病理学科、社会医学科、内科、外科)，体现医学研究具体方向的3大专业(地区医疗综合医学专业、结构功能医学专业、器官病态医学专业)、9大领域、46项科目，进行了大幅度的改编调整，定额人数也达到42人。与此同时，开设医科学专业(硕士课程)，逐步形成地区医疗和健康保健医学做贡献的体制



■ 保健看護学研究科 修士課程

保健护理学研究科 硕士课程

教育理念 教育理念

広い視野と高邁な倫理観に立ち、人間の尊厳を重視する保健看護学における教育・研究を推進し、健康に関する様々な分野と連携しながら、保健・医療・福祉を取りまく環境に先駆的に対応できる専門職を育成する。

用宽广的眼界和崇高的伦理道德观，推进重视人类的尊严的保健护理学的教育和研究，培养具备与各健康相关的领域合作，在保健、医疗、福利综合环境中起带头作用的专门人才。

育成する具体的人材像 培养人才的方向

- ① 社会地域での健康文化の発展にリーダーシップを發揮できる専門職の育成
- ② 保健・医療・福祉を総合的にコーディネートできる専門職の育成
- ③ 高度な専門的知識・技術を有する専門職の育成

- ① 培养能够领导地区社会的健康文化发展的专门人才
- ② 培养具备保健、医疗、福利综合协调能力的专门人才
- ③ 培养掌握高深专业知识与技术的专门人才

3つの専攻領域 3个专攻领域

保健看護学部の特色をいかし、さらに専門性を軸とした領域間の連携により、保健看護学研究科修士課程は3つの領域で構成される。

保健护理学研究科硕士课程由三个领域构成。发挥保健护理学部的特色，以专门性为核心加强领域之间的合作。我们编排了针

いずれの領域の専攻者であっても、研究手法、研究デザインに関する教育課程が編成されており、研究者に求められる批判力、論理性、表現力の涵養が可能である。

对研究手法、研究设计的教育课程，通过该课程的学习，不论专攻哪个领域，都可以培养研究者所需要的批判力、伦理观和表达能力。

健康科学領域

健康科学領域

身体的、精神的、社会的侧面から「健康」をとらえ、関連する諸科学において学的に探求する領域（非看護系出身者の入学はこの領域に限られる。）
从身体、精神和社会的侧面捕捉“健康”，在相关各科学中跨学科研究的领域。（非护理系出身人员仅限于在此领域入学）

基盤看護学領域

基础护理学领域

看護学の専門性に対応した看護学各分野における実践者、研究者、教育者の育成を目指す領域
以培养具有对应护理学的专业性护理学各领域的实践者、研究者、教育者为目标的领域

生活・地域保健学領域

生活/地区保健学领域

家庭、地域、職域等、人々の生活の場における健
康づくりのプロフェッショナルを育成する領域

培养在家庭、地区、工作岗位等人们生活的场所进行保健工作的专门人士

■ 授業科目

课程科目

● 健康科学領域

- 健康増進学
- 神経機能形態学
- 発育・育成学
- メンタルヘルス学

● 健康科学领域

- 增进健康学
- 神经功能形态学
- 发育·生长学
- 精神健康学

● 基盤看護学領域

- 基礎看護学
- 高齢者看護学
- 慢性看護学
- 急性看護学

● 基础护理学领域

- 基础护理学
- 老年护理学
- 慢性护理学
- 急性护理学

● 生活・地域保健学領域

- 母性保健学
- 小児保健学
- 地域看護学
- 在宅ケア看護学
- 環境保健学

● 生活·地区保健学领域

- 母性保健学
- 小儿保健学
- 区域护理学
- 家庭护理学
- 环境保健学

共 通 科 目 共通科目

■ 必修科目 必修科目

保健看護学研究法、英語文献講読、保健看護情報統計学

保健护理学研究方法、英语文献解读、保健护理信息统计学

■ 選択科目 选修科目

保健看護学概論、健康マネジメント政策論、看護理論、看護教育論、看護管理論、臨床入門、コンサルテーション論、医療と法、健康栄養学、家族看護学、ヘルスケアエシックス、心理測定評価論

保健护理学概论、健康管理政策论、护理理论、护理教育论、护理管理论、临床入门、病症治疗理论、磋商论、医疗与法、健康营养学特论、家庭护理学、健康管理伦理学、心理测量评价论



助产学専攻科

助产学专业



■ 教育理念 教育理念

女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができる専門職を育成します。また、人との出会いとふれあいを大切にした教育を目指します。

尊重女性独立，培养能够提供安全、高品质的助产护理的专家。此外，教育学生要珍视人与人之间交往。

■ 目的 目的

幅広い教養と豊かな人間性を育み、助産及び母子保健全般に関する高度な知識と優れた技術を教授・研究し、地域の母子保健の発展向上に寄与することを目的としています。

目的是培养良好的教养和丰富的人性，传授/钻研助产及母子保健等全方位的高深知识和高超技术，为促进地区母子保健的发展做贡献。

■ 授業科目 上課科目

リプロダクティブヘルスを基盤に、助产学の基礎及び実践、女性の健康や成育支援などの授業科目で構成しています。また、実習施設の助産師と連携した授業や学生主導型の授業を取り入れています。

立足于女性生殖健康，由助产学基础和实践，支持女性健康和发育等课程组成。同时还引进与实习设施中的助产士合作课程、学生主导型课程。

■ このような人材を育成します

我们目标是培养这样的人才

- 高度な専門的知識と科学的思考力を養い、安全な技術が提供できる実践力ある人材
- 女性の生涯にわたる健康づくりを支援し、地域の母子保健の発展に貢献できる人材
- 助産師として自律し、専門職とし自立した役割を遂行できる人材
- 具备高度专业的知识和科学的思考能力，能提供安全技术并具实践能力的人才
- 支持女性生涯健康建设、为地区母子保健的发展做贡献的人才
- 有作为助产士和专业人士的自觉，能够自主自律、独立完成任务的人才



■ 実習施設 實习设施

● 病院

和歌山県立医科大学附属病院
国保日高総合病院
社会保険紀南病院

● 助産院

植芝助産所 坂本助産所 ちひろ助産院
なごみ助産院 深見助産所 等(50音順)

医院
和歌山县立医科大学附属医院
国民健康保险日高综合医院
社会保险纪南医院

妇产科医院
植芝产科医院 坂本产科医院 千寻产科医院
和美产科医院 深见产科医院等 (50音图顺序)



国際交流センター

国际交流中心



平成18年4月、和歌山県立医科大学の独立法人化にともなって、国際交流センターが設立されました。国際交流センターでは、地域の国際化に貢献するとともに、本学及び関係機関等の国際交流の推進、医学・保健看護学における国際水準の教育・研究の推進、国際医療支援の推進を目的に活動しています。

2006年4月，伴随着和歌山县立医科大学的独立法人化，成立了国际交流中心。国际交流中心的工作目标是在为地区的国际化做贡献的同时，推动本校及相关机关等的国际交流，推动在医学、保健护理学方面具有国际水准的教育和研究，推动国际医疗支援。

■理念と目的 理念与目的

- ① 研究者・学生および医療関係者を中心として、医学・医療先進国の大学・研究所および医療機関との学術交流を行うことにより、本学において世界最高水準の教育・研究・医療体制を実現する。
- ② 開発途上国（特にアジア諸国）の医学・医療分野の学生・研究者・技術者を受け入れたり、本学の医療スタッフを現地に派遣することにより、当該地域の医療活動を支援し、そのレベルの向上に寄与する。
- ③ 県内の他の大学などの国際交流機関との連携を図り、国際交流事業を活性化することにより、県全体の「国際化」を促進する。

- ①以研究人员、学生和医疗相关人员为中心，通过与医学/医疗发达国家的大学、研究所及其他医疗机构的学术交流，在本校建立起具有世界最高水平的教育、研究、医疗体制。
- ②接受发展中国家（特别是亚洲各国）医学、医疗领域的学生、研究者和技术者，并将本校的医疗队伍派遣到当地，支援当地医疗活动，为提高其水平做贡献。
- ③与县内其他大学的国际交流机关合作，通过激活国际交流事业，促进全县的“国际化”。

■協定状況 协定状况

H21.1.1現在

地域 地区	国名 国名	相手大学 対方大学	学術交流 学术交流	学生交流 学生交流	協定締結年月日 签订协定年月日
アジア 亚洲	中国 中国	山東大学 山东大学	○		1986.5.7
		山東大学 山东大学		○	2004.11.17
		上海交通大学医学院 上海交通大学医学院	○	○	2006.7.15
		香港中文大学 香港中文大学	○	○	2007.10.15
	タイ 泰国	マヒドン大学 国立玛希隆大学	○	○	2006.1.30
		マヒドン大学公衆衛生学部 国立玛希隆大学公众卫生学院	○	○	2008.10.7
		コンケン大学医学部 孔敬大学医学部	○	○	2006.11.13
	大韓民国 大韩民国	ソウル大学 首尔大学	○	○	2008.3.20



国際交流センター（図書館棟3F）
国际交流中心（图书馆3楼）



国際交流ハウス（はまゆう寮1F）
国家交流之家（“浜木棉”宿舎楼1楼）



留学生歓迎会
留学生欢迎会

附属病院

附属医院

■ 病院の理念 医院的理念

和歌山県立医科大学附属病院は22の外来診療科、800床の病床を有し、1日の外来患者は約1,500人を数え、和歌山県内における医療の中心として大きな役割を担っています。

当院は、患者さん本位で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献することを理念としており、この理念達成のため、患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行うとともに、高度で先進的な医療の研究の推進や豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人の育成に努め、地域の中核病院として和歌山の保健医療を推進することを基本方針としています。

和歌山县立医科大学附属医院有22个门诊部，800张病床，平均每天有1500位门诊病人，作为和歌山县的医疗中心发挥着重要作用。我院的根本理念是以患者为本，提供高品质的医疗服务，为提高地区的保健医疗水平做贡献。为了达成这一理念，建立和患者之间的信赖关系至关重要，在提供安全的诚心的医疗服务的同时，致力于培养能够推动高度的先进的医疗研究、具有丰富的人性和卓越专业技术的医疗人才。作为地区的核心医院，推动和歌山保健医疗事业的发展是我院的基本方针。

■ 沿革 沿革

平成7年4月 1995年4月	附属病院特定機能病院の承認 被认定为附属医院特定功能医院
平成10年7月 1998年7月	新和歌山県立医科大学附属病院竣工 新和歌山县立医科大学附属医院竣工
平成11年5月 1999年5月	新附属病院開院 新附属医院开院
平成12年6月 2000年6月	救命救急センターの設置認可 被批准建立生命急救中心
平成15年1月 2003年1月	ドクターへリ就航 医疗专用飞机起航
平成17年12月 2005年12月	和歌山県総合周産期母子医療センターに指定 被指定为和歌山县综合围产期母子医疗中心
平成18年4月 2006年4月	独立行政法人化 独立行政法人化
平成19年1月 2007年1月	和歌山県がん診療連携拠点病院に指定 被指定为和歌山县癌症诊疗合作定点医院
平成19年10月 2007年10月	化学療法センター開設 开设化学疗法中心
平成20年1月 2008年1月	側日本医療機能評価機構の「病院機能評価」 (Ver5.0)認定 获得 (财) 日本医疗功能评价机构的“医院功能评价” (Ver5.0)认证
平成22年5月 2010年5月	電子カルテの導入 引进电子病历



NICU NICU



エックス線テレビ室 X光电视室



化学療法センター 化学疗法中心

診療科 诊疗科

1階	リハビリテーション科 康复科
	心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科 心血管外科/呼吸器外科/乳腺外科
	消化器外科・内分泌外科・小児外科 消化外科/内分泌外科/小兒外科
2階	脳神経外科 脑神经外科
	眼科 眼科
	整形外科 骨外科
	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科
	放射線科 放射科
3階	糖尿病・内分泌代謝内科 糖尿病/内分泌代谢内科
	消化器内科 消化内科
	呼吸器・アレルギー内科 呼吸器/过敏内科
	循環器内科 循环系统内科
	血液内科 血液内科
	神経内科 神经内科
	皮膚科 皮肤科
	腎臓内科 肾脏内科
	泌尿器科 泌尿科
	産科・婦人科 产科/妇科
	麻酔科 麻醉科
	神経精神科 神经精神科
	小児科 小儿科
	歯科口腔外科 牙科口腔外科

中央部門 中央部门

1階	中央放射線部(治療) 中央放射部(治疗)	3階	医療安全推進部 医疗安全推进部
	薬剤部(製剤) 药剂部(制剂)		感染制御部 感染控制部
	救命救急センター(救急外来) 生命急救中心(急救门诊)		中央検査部 中央检验部
2階	中央滅菌部 中央灭菌部		輸血・血液疾患治療部 输血/血液疾病治疗部
	病態栄養治療部 病状营养治疗部		臨床工学センター 临床工学中心
	化学療法センター 化学疗法中心		中央内視鏡部 中央内视镜部
4階	中央放射線部 中央放射部		救命救急センター(ICU、HCU) 生命急救中心(ICU、HCU)
	薬剤部(調剤) 药剂部(配药)		中央手術部 中央手术部
	病歴部 病历部		血液浄化センター 血液净化中心
5階			腫瘍センター・血液内科 肿瘤中心・血液内科
6階			総合周産期母子医療センター 综合围产期母子医疗中心
7階			救命救急センター(CCU) 生命急救中心(CCU)



ドクターヘリ 医疗专用直升飞机

病棟案内図 病房结构图

病房结构图

構造 地下部 鉄骨鉄筋コンクリート造
地上部 鉄骨造

規模 建築面積 10,992.82m²
建築延面積 84,530.76m²

階数 地下1階・地上13階・塔屋2階
最上階にヘリポート設置
高さ 約59m

病床数 800床

駐車場 715台収容(一部立体駐車場)

正面玄関



紀北分院

紀北分院

公立高野山大学
紀北分院

和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院

和歌山县立医科大学附属医院 纪北分院

紀北分院では、患者さんとの絆を大切にして人間味あふれる、まごころと調和のとれた病院づくりを追求し、安心と納得の医療を提供することを基本理念としています。「笑顔で挨拶・明るく・あたたかく」を心がけ、患者さんに「まごころ」をもって接する医療人を育成し、患者さんへの十分な説明と同意に基づく安心で安全な医療を提供し、患者さんの体と心の癒しのために全力を注ぐことを実行します。また、最新の医学的研究を活用し、地域の皆様の健康づくり並びに救急医療、災害医療及びへき地医療等に質の高いチーム医療を提供し、地域社会に貢献することが紀北分院の使命であります。

纪北分院的基本理念は重视和患者间的关系，建设充满人性的、诚信和谐的医院，提供安全被认可的医疗服务。以“笑脸迎接、更开朗，更温暖”为目标，培养“真心”对待患者的医疗人才。向患者进行充分说明，基于患者的同意提供安全放心的医疗服务，为治愈患者的身心疾病全力以赴。同时，灵活应用最新的医学研究成果。为保障地区人民的健康，提供急救医疗、灾害医疗和偏远地区医疗等高品质的医疗队伍，为地区社会做贡献是纪北分院的使命。

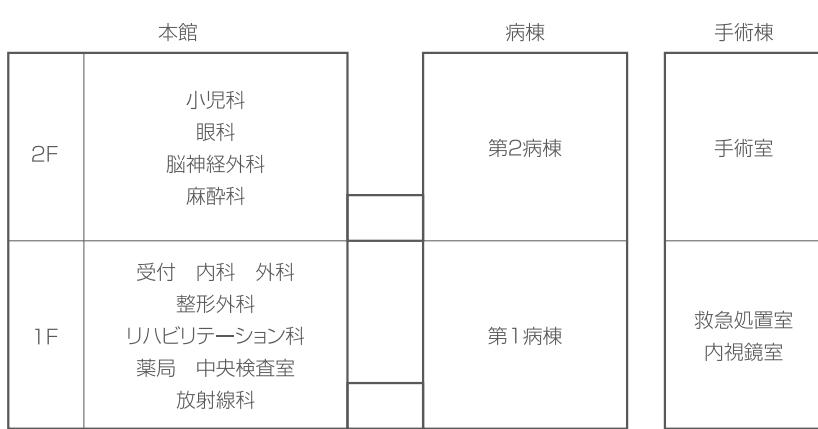
診療科

诊疗科

1階	内科 内科
	外科 外科
	整形外科 骨外科
	リハビリテーション科 康复科
2階	小児科 小児科
	眼科 眼科
	脳神経外科 脑神经外科
	麻酔科 麻酔科

病棟案内図

病房结构图



新分院について

关于新分院

新しい分院は医科大学附属病院としての特徴をより鮮明にします。地域で高齢者医療を行ってきた内科は、総合診療内科として医学生や臨床研修医にプライマリケア、ケアマインドの教育を行います。また大学附属病院としての質の高い専門医療は、脊椎(スパイン)センターと緩和ケアを行います。脊椎(スパイン)センターは脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科・精神神経科等のチーム医療を目指しています。また緩和ケアやケアマインドの教育のため、高野山大学スピリチュアルケア学科との連携も視野に入れ、平成22年秋、開院を予定しています。

新的分院更加鲜明的展现医科大学附属医院的特征。综合诊疗内科一直为地区老年人提供医疗服务，并对医学专业的学生和临床实习医生进行基础护理、心理护理等方面教育。此外，作为大学附属医院，还提供脊椎(spine)中心、缓和护理等高品质的专业医疗服务。脊椎(spine)中心的目标是组建脑神经外科、骨外科、康复科、精神神经科等医疗队伍。为了进行缓和护理和心理护理的教育，决定与高野山大学精神护理学科的合作，预计将在2010年秋季开院。



総合診療(プライマリケア)・小児科・眼科
専門医療
○脊椎(スパイン)センター
○緩和ケア

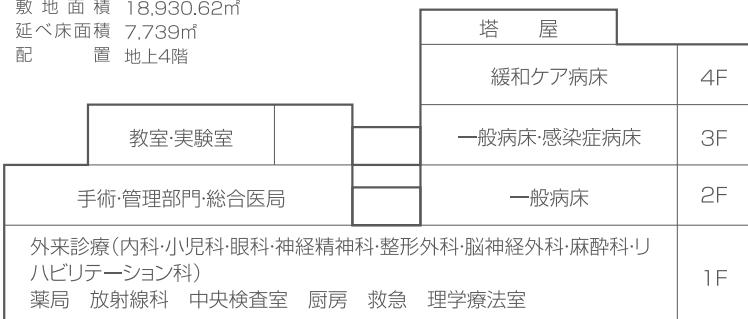
新分院病棟案内図

新分院病房结构图

建 設 地 かつらぎ町妙寺219番地 (現地)
敷 地 面 積 18,930.62m²
延べ床面積 7,739m²
配 置 地上4階

←
北
西

→
南
東



産官学連携推進本部

产官学联合推进本部



■ 产官学连携推進本部の役割

产官学联合推进本部的职责

県民の健康増進、地域産業振興など本学の医学・保健看護学の分野における社会貢献を目的とし、政府公共機関や産業界との共同研究等を推進します。

また、研究活動の目的に応じ、関連分野の各研究室の紹介を行うほか、受託・共同研究などの研究交流、寄附講座等の相談窓口としての総合的な活動及び業務を行っています。

本校以增强县民的健康、振兴地区产业和在医学、保健护理学领域为社会做贡献为目标，促进与政府公共机关和产业界的共同研究。根据研究活动的目的，除了介绍相关领域的各研究室之外，还作为受托/共同研究等研究交流和捐赠讲座等的研讨窗口开展综合性的活动及业务。

■ 受託・共同研究

受托/共同研究

受託研究とは、委託者から依頼を受けて行う研究です。

また、共同研究とは、企業等との研究者と本学の教員とが共通の課題について、対等な立場で共同し研究を行います。

受托研究是指接受委托者的委托进行研究。共同研究是指企业研究者和我校的教师针对同一课题、在同等立场进行共同研究。

■ 奨学寄附金

捐赠奖学金

大学の教育研究の奨学を目的として、奨学寄附を受け入れ、学術の振興に役立てます。

以奖励大学的教育研究为目的，接受捐赠的奖学金以振兴学术。

■ 寄附講座

捐赠讲座

奨学を目的とする公共機関や産業界等からの寄附金を有効活用し、公立大学法人和歌山县立医科大学の主体性のもとに設置運営し、教育研究等の進展及び充実を図るとともに、地域振興等に大きな成果を生むことを目的とします。

有效使用以奖学为目的的公共机关和产业界的捐赠，以公立大学法人和歌山县立医科大学为主体设置运营，以发展和充实教育研究的同时，以达到振兴当地的产业从而产生巨大成果为目的。



みらい医療推進センター 未来医疗推进中心



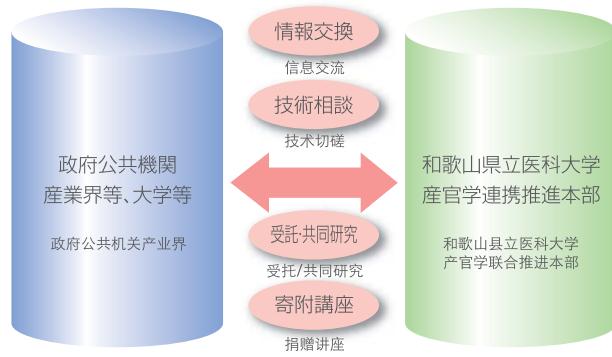
周産期医療支援学講座 围产期医疗支援学讲座



病態栄養治療学講座 病态营养治疗学讲座

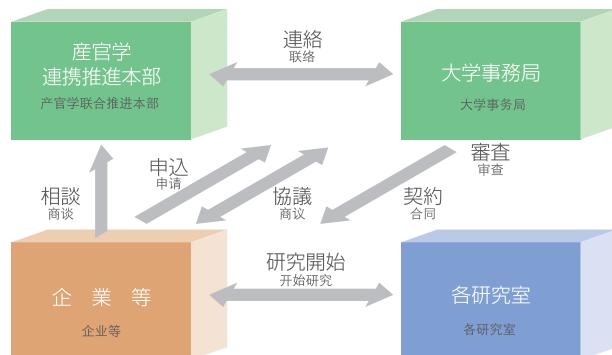
■ 产官学交流の推進体制

产官学交流推进体制



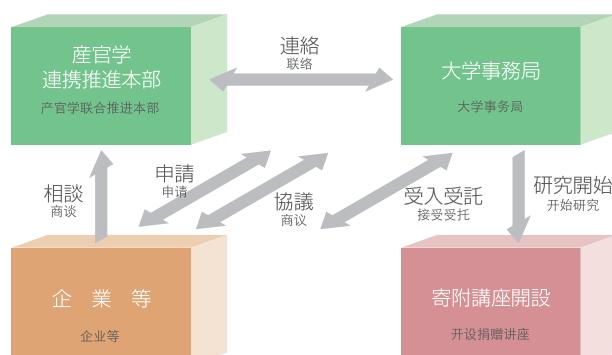
■ 受託・共同研究 受け入れ手続き

受托/共同研究引进手続



■ 寄附講座 受け入れ手続き

捐赠讲座 接受手續



施設紹介

设施介绍



図書館 图书馆

紀三井寺館は、図書館棟の1階および2階に位置しており、大きなガラスの壁(カーテンウォール)のモダンな図書館であり、“学部の顔”を構成する重要な建物です。また情報化への対応にも積極的に取り組み、電子ジャーナル等により最新医学情報を提供出来る環境も整備しており、利用者に充分満足を与える情報発信基地としての機能を充実させた図書館です。

三葛館は、保健看護学部等のある三葛キャンパスに位置し、主に保健看護学に関する資料を所蔵しています。文献等の検索データベース、電子ジャーナルなどの電子リソースも利用でき、新しい知識を得るための環境が整っています。学内はもとより学外からも年間約1,000人の利用があり、地域の社会的情報基盤としての役割も担っています。

纪三井寺馆位于图书馆大楼的1层和2层，是由大块玻璃墙（幕墙）构成的现代图书馆，是代表学部的标志性重要建筑物。另外，为积极响应信息化要求，馆内配备了相应的环境，可以通过浏览电子刊物等获取最新医学信息。成为令使用者满意的具备信息传播基地功能的图书馆。三葛馆位于有保健护理等学院的三葛校区，主要收藏与保健护理学相关的资料。馆内提供了通过使用文献搜索数据库、电子刊物等电子资源获取新知识的优越环境。校内自不必说，校外一年的平均使用人数也达到了1000人，是地区社会的信息中心。



紀三井寺館 纪三井寺馆



三葛館 三葛馆



女性医療人支援センター 女医务人员支援中心

女性医療人支援センターは平成19年に開設され、特にFD教育による男性の意識改革とコーチングを活用して育児休業者の豊かな生活、職場復帰のモチベーションの持続、復帰後の育児と仕事の両立を支援しています。

女性医療人支援センターでは、育児中の女性医療人のフレックス制、ワーカシエアリングを支援し、立場の異なる女性医療人たちが各自の価値観を調節させつつ、職場の上司、同僚、夫、後輩にあたる医療人たちと協働することを推進して参ります。

また、eラーニングを活用した休業中の女性医療人の各々のニーズに合わせた医療技術、技能研修を図るように支援し、育児の合間に利用した効率的なスキルアップを行い、持続した学習によって復帰に対する不安を解消する取組を行っています。

女医务人员支援中心成立于2007年，通过FD教育引导和改革男性意识，为丰富生育休假者的生活、鼓励她们重回工作岗位，并支持女医务人员重回工作后实现兼顾育儿与事业。在支援中心，为育儿中的女医务人员调配工作时间、工作内容，一面调节处于不同环境下的女医务人员的价值观，一面推动和上司、同事、丈夫、后辈之间合作。另外，还通过e-learning，为休假中的女医务人员提供能够满足她们不同需求的医疗技术和技能培训，帮助她们利用育儿的余暇有效提高技术水平，通过持续学习消除对重回工作岗位的不安。



OPナースのミーティング OP护士会议

生涯研修・地域医療支援センター 职业培训/地区医疗支援中心

生涯研修・地域医療支援センターは、和歌山県立医科大学の高度総合診療能力と教育研修機能および高度情報機能を駆使して、地域医療に従事する医師、その他の医療従事者の生涯学習の充実に寄与するとともに、地域の保健医療および福祉の向上に資することを目的とし、開設されました。

今日では、「最新の医療カンファレンス」という講演会を定期的に開催し、たくさんの県民の方々の要望に応えています。

职业培训/地区医疗支援中心的设立，目的是运用和歌山县立医科大学的高度综合诊疗能力、教育培训功能和高速信息渠道，为充实从事地区医疗的医生和其他医务人员的职业学习和提高地区的保健医疗和福利事业做贡献。如今，定期举行有“最新型医疗会议”之称的演讲会，以回应众多县民的要求。



「最新の医療カンファレンス」の様子 “最新型医疗会议”的样子

臨床技能研修センター 临床技能培训中心

臨床技能研修センターは平成18年に開設され、平成22年度からは高度医療人育成センター2階に移設されました。教育研究開発センターが管理・運営し、シミュレータ教育プログラムの開発とともに機材の管理、予約運営を一括して行っております。今回の移設に伴い規模、内容とも日本有数のセンターとなりました。

本センターの基本理念は、学内の学生、研修医、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師を含むすべての職種の研修とともに学外の医療従事者、県民の方々の研修にも利用できる施設を目指しております。

利用者数は、現在1200人/月と増加しており、医療従事者を対象とした心肺蘇生研修(BLS, ACLS)、学生実習以外にも新規採用看護師の研修や臨床検査技師の採血研修、事務職員のBLS研修にも利用されています。

また、医療安全研修の一環として、学内のガイドラインに準拠し、学内のシステム、学内で使用されている器具、薬品を用いた手技のDVDを作成し、手技修得の評価、資格試験を実技とe-learningで行えるシステムの構築を準備しております。

さらに、学内のオーダリングを用いたより実践に近い医療安全研修を行うため、模擬病室を設置しました。これ以外にも学生の基礎医学の実習に利用する新しい試みも行っております。

临床技能进修中心成立于2006年，从2010年起迁至高度医疗人才培训中心2楼。由教育研究开发中心管理运营，在开发模拟训练教育程序的同时，逐步统一器材管理和预约运营。

随着此次搬迁，其规模、内容均成为日本屈指可数的中心。本中心的基本理念是：建立为包括校内学生、实习医生、医生、护士、临床检查技师和放射技师在内所有人员，及校外医疗人员和县民提供培训的设施。使用者人数目前已增至1200人/月，被广泛应用于除以医疗人员为对象的心肺复苏培训（BLS, ACLS）、学生实习外、新录用的护士的培训、临床检查医师的抽血培训以及事务类职员的BLS培训等也可利用，作为医疗安全培训的一环，根据学校的指导方针，将校内系统、校内使用的器械、药品等的安全使用操作方法做成DVD，还准备有能够评价技术的掌握状况，以实际操作和e-learning进行资格考核的系统。为了能够通过校内的预定系统进行接近实践的医疗安全培训，我们还设立了模拟病房。此外，正在进行能够应用于学生基础医学实习方面的一些新尝试。



シミュレーターを用いた研修の様子 使用模拟器培训时的情景



シミュレーターを用いた内頸静脈カテーテル挿入法の実演
使用模拟器实际演习颈内静脉置管方法

高度医療人育成センター

高度医疗人才培训中心

和歌山县立医科大学では、地域医療の発展と高度医療人の育成に寄与するため平成22年4月1日から高度医療人育成センターの運用を開始しました。

本センターは鉄筋コンクリート造・5階建・延床面積約3,000m²で、1階に106台のPCを設置する地域医療支援推進室、2階に全国でも有数の規模の臨床技能研修センター、3階に卒後臨床研修センター、4階に18の個室と全室モニターを備えたOSCE研修室、5階に最大144人収容可能な研修室などがあります。

在和歌山县立医科大学，为了对地区医疗的发展和高度医疗人才的培养做出贡献，从2010年4月1日起，高度医疗人才培训中心投入使用。

本中心为钢筋混凝土结构的5层建筑，建筑面积约3000m²，1楼为设有106台PC的地区医疗支援推进室，2楼为其规模在日本全国也屈指可数的临床技能培训中心，3楼为毕业后的临床进修中心，4楼由18个单间和具备全室监视器的OSCE培训室组成，5楼为最多可容纳144人的进修室。



高度医療人育成センター 高度医疗人才培训中心

先端医学研究所 尖端医学研究所

分子医学研究部

分子医学研究部では、分子レベルでの疾患の発生機構の解明および治療に関する研究を実施しています。特に、種々の生命現象に重要な働きをするシグナル伝達系に焦点を当てています。現時点での重点的研究内容は、①新しい細胞内シグナル伝達機構の解明とその異常により発生する病態の解明、および②このシグナルを利用することにより中枢神経障害、特に神経変性疾患の再生医学的治療法の確立を目指すことにあります。

分子医学研究部

分子医学研究部、对疾病发生的原理以及治疗方法进行分子水平的研究。特别关注对于各种生命现象起重要作用的信号传递系统。目前重点的研究内容有：①对细胞内部新的信号传递机理及当它发生异常时的病态进行解析 ②通过使用该信号传递机理，为中枢神经障碍，特别是神经变异性疾病的再生医学确立治疗方法。



分子医学研究部 分子医学研究部

医学医療情報研究部

医療情報学、病院管理学、診療情報管理学などの対象分野を中心テーマとし、附属病院の病院情報システムや学内LANの運用実務とも関わりを持ちながら幅広い研究を手がけていきます。現在の研究テーマは、①インターネットを利用した医療情報提供のあり方に関する研究、②病院情報システムの運用と評価に関する研究、③情報技術を活用した地域医療情報連携に関する研究などです。

医学医疗信息研究部

是以医疗信息学、医院管理学、诊疗信息管理学等领域为对象，应用附属医院的医院信息系统和校内局域网实际运营业务相关的内容，进行广泛研究。目前的研究课题是：①利用网络提供医疗信息相关状态 ②医院信息系统的运用和评价 ③应用信息技术、进行地区医疗信息合作。



医学医療情報研究部 医学医疗信息研究部

卒後臨床研修センター 毕业后临床进修中心

卒後臨床研修センターは平成16年に国が導入した『新医師臨床研修制度』に伴い開設されました。大学医学部卒業後、2年間の臨床研修が義務化された制度であり、その活動拠点となっています。

“富士山をモデルに高い専門性と裾野の広い基礎医療、そして社会奉仕の心を身につける”という理念に基づいた、本学独自の研修プログラムが各方面から評価され、県内のみならず全国からも研修を希望する医師の人数は年々増加。その人数は全国トップクラスを誇ります。

将来の和歌山県の医療を、また日本の医療全体をも担う医師育成の核として、今後も進化への取り組みを続けていきます。

毕业后临床进修中心是在2004年，伴随着国内《新医生临床进修制度》的导入而开设的。制度的内容是：将从大学医学部毕业后2年时间的临床实习义务化。临床进修中心就是为此所设的活动据点。以“掌握如富士山般高度专业性的、及其足下原野般广泛的基础医疗知识，为社会做贡献的心灵。”为理念的我校独特的培训计划，受到了各方面的好评，不仅是县内，全国各地想要来我校培训的医生也逐年增多，医生人数名列全国前茅。为培养能够肩负未来和歌山县的医疗事业，乃至日本的整体医疗事业的医生，我校在今后也会不断努力采取各种推进措施。



「センターでのカンファレンス」の様子
“在中心商谈”的景象

共同利用施設 共同利用设施

■ラジオアイソトープ(RI)実験施設

RI実験施設はコンピュータによる放射線管理、すなわち磁気力セットを用いた入退室管理、RIの使用/貯蔵/廃棄などの在庫管理、個人被ばくおよび健康診断の管理、さらにRIの排気、排水モニター管理などによって、より合法的かつ安全に運営維持できるコンピュータシステムを備えています。また、実験施設内で行われている研究内容は、³²P、³⁵Sなどで標識したDNA、RNAを用いて行う遺伝子に関する研究を始め、⁵¹Crによる細胞傷害活性測定法を用いた癌ワクチンの開発など、先端医療分野の研究が進められ大きな成果を上げています。



ラジオアイソトープ(RI)実験施設 放射性同位素 (RI)实验室

放射性同位素 (RI)实验室

RI实验室是通过计算机进行放射线管理，即使用磁带记录机卡进行进出管理、RI的使用/保存/废弃等库存管理、个人被照射记录以及健康诊断管理。另外，还提供了能够通过RI排水排气的监控管理等，设有进行更加合理安全的运营维护的计算机系统。实验室中能够进行如利用有³²P、³⁵S等标记的DNA、RNA进行遗传基因相关研究，利用有⁵¹Cr标记的细胞伤害活性测定方法开发癌症疫苗等先进医疗领域的研究，都已获得重大成果。



中央研究機器施設 中央研究机器设施

■中央研究機器施設

中央研究機器施設は分子生物学・細胞生物学の研究を支援しています。また、当施設は、電顕準備室・電子顕微鏡室・生化学分析室・超遠心機室・製氷室からなっています。

中央研究机器设施

中央研究机器设施为分子生物学/细胞生物学的研究提供条件。该设施由电显准备室、电子显微镜室、生物化学分析室、超离心机室和造冰室组成。



動物実験施設 动物实验室

■動物実験施設

動物実験施設は、本学で実施される動物実験の支援を行います。飼育管理を基本として、動物倫理、環境保護、人的保護に配慮された高度な動物実験を行うため、飼育及び実験環境の整備、動物実験に関する情報の収集と提供なども行っています。今後大切となる飼育動物の履歴、飼育状況等の記録に関しても積極的に整備してきました。近年の動物実験は、SPF(Specific Pathogen Free)環境が必須です。清潔適切に管理された施設として基礎研究を支えています。

动物实验室

动物实验室是为支持本校的动物实验而设立的。以饲养管理为基础，在具有高度关心动物伦理、环境保护、人类保护的前提下，为进行高水平动物实验，配备饲养和实验环境、收集和提供动物实验等相关信息。积极整理动物饲养履历、饲养状况等记录，这些记录在今后会变得非常珍贵。近几年的动物实验中，SPF(SpecificPathogenFree)环境是必不可少的。通过清洁妥当的管理来支持基础研究。

組織機構図

组织机构图



平成22年4月1日現在

※診療部門

- 糖尿病・内分泌代謝内科
- 消化器内科
- 呼吸器・アレルギー内科
- 腎臓内科
- 循環器内科
- 神経内科
- 心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科
- 消化器外科・内分泌外科・小児外科
- 神経精神科
- 小児科
- 脳神経外科
- 整形外科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 産科・婦人科
- 歯科口腔外科
- 麻酔科
- リハビリテーション科
- 血液内科
- 緩和ケア
- 総合外来

※中央部門

- 救急・集中治療部
- 総合周産期母子医療センター
- 集学的治療・緩和ケア部
- 中央内視鏡部
- 腎臓内科・血液浄化センター
- 輸血血液疾患治療部
- 薬剤部
- 中央検査部
- 中央放射線部
- 中央手術部
- 中央滅菌部
- 病態栄養治療部
- 病歴部
- 医療安全推進部 — 医療安全推進室
- 感染制御部
- 臨床工学センター
- 化学療法センター
- 治療管理センター — 治験管理室
- 救命救急センター
- 卒後臨床研修センター
- 看護部

- 内科
- 外科
- 脳神経外科
- 産科・婦人科
- 眼科
- 小児科
- 麻酔科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 薬局
- 中央検査室
- 看護部



沿革 沿革

昭和20年2月 ● 和歌山県立医学専門学校設置認可(4年制、美園)
 昭和22年6月 ● 和歌山県立医科大学予科設置認可(3年制)
 昭和23年2月 ● 和歌山県立医科大学設置認可(旧医科大学4年制)
 昭和25年3月 ● 和歌山県立理科短期大学併設認可(2年制)
 昭和26年3月 ● 和歌山県立医学専門学校及び予科閉校
 昭和27年2月 ● 学制改革による和歌山県立医科大学設置認可
 昭和30年1月 ● 和歌山県立医科大学進学課程設置認可
 昭和30年3月 ● 和歌山県立理科短期大学閉校
 昭和30年4月 ● 和歌山県立医科大学開校(新制6年制、40名)
 昭和33年7月 ● 学位規程の制定認可(学位審査権)
 昭和35年3月 ● 和歌山県立医科大学大学院設置認可
 昭和36年3月 ● 旧制和歌山県立医科大学廃止
 昭和38年4月 ● 大学本部及び基礎医学部門移転認可(九番丁)
 昭和39年1月 ● 学生定員60名へ変更承認
 昭和40年4月 ● 進学課程移転(紀伊)

1945年 2月 批准創立和歌山县立医学専門学校(4年制、美園)
 1947年 6月 批准創立和歌山县立医科大学預科(3年制)
 1948年 2月 批准創立和歌山县立医科大学(旧医科大学4年制)
 1950年 3月 批准增设和歌山县立理科专科(2年制)
 1951年 3月 关闭和歌山县立医学専門学校和預科
 1952年 2月 批准創立学制改革后的和歌山医科大学
 1955年 1月 批准开设和歌山县立医科大学升学课程
 1955年 3月 关闭和歌山县立理科专科学校
 1955年 4月 创办和歌山县立医科大学(新6年制、40人)
 1958年 7月 批准制定学位章程(学位审核权)
 1960年 3月 批准創立和歌山县立医科大学研究生院
 1961年 3月 废弃旧体制和歌山县立医科大学
 1963年 4月 批准大学本部以及基础医学部门迁移(九番丁)
 1964年 1月 批准学生定额变为60人
 1965年 4月 升学课程迁移(纪伊)

平成7年12月 ● 看護短期大学部併設(3年制)
 平成10年9月 ● 和歌山県立医科大学開講式(紀三井寺)
 平成11年5月 ● 和歌山県立医科大学統合移転完成(紀三井寺)
 平成11年9月 ● 生涯研修・地域医療センター開所
 平成16年4月 ● 保健看護学部開設
 平成17年4月 ● 大学院医学研究科修士課程開設・博士課程再編
 平成18年4月 ● 公立大学法人和歌山県立医科大学に組織改編
 平成18年8月 ● 文部科学省の「特色GP」、「現代GP」に選定
 平成19年3月 ● 看護短期大学部閉学
 平成19年8月 ● 文部科学省の「学生支援GP」、「医療人GP」に選定
 平成19年10月 ● 医学部定員85名届出受理
 平成20年4月 ● 大学院保健看護学研究科及び助産学専攻科開設
 平成20年10月 ● 医学部定員95名届出受理
 平成21年10月 ● 文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選定
 平成21年11月 ● 医学部定員100名届出受理

1995年 12月 增設护理专科(3年制)
 1998年 9月 和歌山县立医科大学开课仪式(纪三井寺)
 1999年 5月 完成和歌山县立医科大学成功迁移合并(纪三井寺)
 1999年 9月 开设职业培训/地区医疗中心
 2004年 4月 开设保健护理学院
 2005年 4月 开设研究生院医学研究科硕士课程,重编博士课程
 2006年 4月 组织重组为公立大学法人和歌山县立医科大学
 2006年 8月 被教育科技委员会评为“特色GP”、“现代GP”
 2007年 3月 关闭护理专科
 2007年 8月 被教育科技委员会评为“学生支持GP”、“医务人员GP”
 2007年 10月 医学院定额85人呈报受理
 2008年 4月 开设研究生院保健护理学研究科和助产学专业
 2008年 10月 医学院定额95人呈报受理
 2009年 10月 被选定为文部科学省“大学教育推进项目”
 2009年 11月 医学院定额100人申报受理

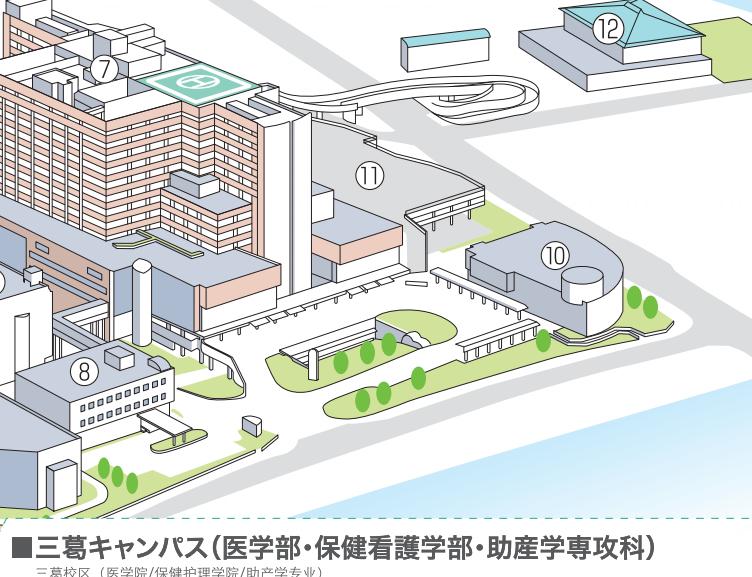
キャンパスマップ 校区地图

■紀三井寺キャンパス(医学部・附属病院)

紀三井寺校区 (医学院/附属医院)

- ①基礎教育棟
基础教育楼
- ②実習棟
实习楼
- ③福利厚生棟
福利厚生楼
- ④RI、動物実験施設
RI、动物实验设施
- ⑤研究棟
研究楼
- ⑥講堂
讲堂
- ⑦附属病院
附属医院
- ⑧管理棟
管理楼

- ⑨図書館棟
图书馆楼
- ⑩エネルギーセンター
能源中心
- ⑪立体駐車場
立体停车场
- ⑫体育館
体育馆
- ⑬高度医療人育成センター
高度医疗人才培训中心
- ⑭託児施設
托儿设施



■三葛キャンパス(医学部・保健看護学部・助産学専攻科)

三葛校区 (医学院/保健护理学院/助产学专业)

- ①研究棟
研究楼
- ②管理・校舎棟
管理/校舍楼
- ③体育館
体育馆
- ④図書館棟
图书馆楼
- ⑤医学部三葛教育棟
医学院三葛教育楼

